

# うたがき優命園

里山生活学校の会場となる「うたがき優命園」は 1992 年、生活学校代表の河内山耕と妻・可奈が、当時原野だった岩手県奥州市江刺区（旧うたがき村）の里山地に入植し、周辺の里山環境と調和した循環型農場を作ることとに精力を注ぎ続けてきた「里山共生農場」です。



周りを 360 度雑木林に囲まれた「うたがき優命園」は、現在山林を含め、6ヘクタールの面積があり、森林（やま）－野良（牧・畑）－水場（田・池）の一体化した里山地で自給生活が営まれてきました。農場内では、鶏・羊・蜜蜂・豚・合鴨等の動物達が少数飼育され、水稻・小麦・大豆・菜種・エゴマ等の作物と 40 種類の野菜などが、農薬に頼らない方法で小規模栽培されているほか、梅、柿、クルミなどの果樹や、アカシア、トチ、ユリノキ等の蜜源樹が植樹されています。

飼育されている動物達は、原則として春から秋にかけて、まきばや田んぼに放牧されて樹木や水稻と共に育てられます。これは、里山自然界の、動物と植物が互いに恵みを受けあう部分に学んだ「立体農法」とか「共生農法」と呼ばれる実に楽しい方法です。

農場は基本的に自給生活ですが、鶏卵を柱に、鶏肉・豚肉・かぼちゃ・じゃがいも等の生産物や、手造り味噌・桑の実ジャム・卵パスタ・卵や蜂蜜の菓子等の加工品は注文に応じて、直接配達や発送で販売しています。

農場なので、当然生産活動が生活の中心ですが、それが周辺の環境（いきものと風景）に負荷をかけないように、むしろいきもの達に喜ばれ、心なごむ風景が生まれるようにという心配りをしながら、日々の百姓仕事を営んでいます。自分達の仕事によって、いきもの達が喜ぶ姿を身近に見られることや、手入れの行きとどいた里の風景を生み出せたことを実感できるのは、何物にも代えがたい楽しみだからです。

そんなわけで、日々の忙しい百姓仕事の合間にも、樹木や野鳥や田んぼの生き物観察を続けて来ました。年に数回に開く「里山の集い」では、この里山農場の生産物といきものたちを参加者の方に紹介し続けています。



